



言葉の誤用は時に誤解を生みます。この記事では、誤解を生みがちな言葉をいくつか、具体的な用例とともに紹介します。敵をあらかじめ知ることで、危険を回避しましょう。(檸檬)

注：※の考察部分においてはあくまで筆者による考察であり、その内容の正確性を必ずしも保証するものではないことをお断りしておきます。

⚠ 五月病 ⚠

誤 五月になって学校や仕事に行くのが面倒になること。

正 新しい環境に適応できずに緊張から精神的疲労が蓄積し、一種の神経症的な症状呈すること。

※言い訳として使われていたのがそのままの意味に誤解されて定着して来たと考えられる。近年では一月病から十二月病まで多様な派生形が報告されているとか。



▲「最近五月病です、授業に出られないんだ(笑)」「それは大変だ。一度病院に行った方がいいぞ」「えっ」

⚠ 失笑 ⚠



▲「彼女のネタは失笑モノだったよ。She showed だけにね(笑)」「あれがそんなに面白かったのか。一度病院に——」「えっ」

誤 白くないこと、あきれられるようなことを聞きしたために場がしらけかえって笑がなくなること。

正 まりにおかしなことを見聞きしたため、わず笑いが漏れてしまうこと。

※ここでの「失」は「失敗」の「失」と同様で「うしなう」ではなく「あやまる」の意味。「失笑モノ」であの子の失われた笑顔を取り戻す、と覚えよう。

⚠ 辛党 ⚠

誤 い食べ物もしくは塩辛い食べ物が好きな人のこと。

正 いものを食べるよりも酒を飲む方が好きな人。

※「辛い」というのはアルコール濃度の高い酒類によるピリッとした感覚が由来か。甘酒が好きな人は甘党にして同時に辛党。という理解でいいのだろうか。



▲「俺は辛党なんだ。大人だからな」「よし！ 激辛カレー飲みに行こうぜ！」「えっ」

⚠ 知恵熱 ⚠



▲「この前勉強しすぎて知恵熱が出たわー(得意顔)」「はあ、お前は若くていいな」「えっ」

誤 強のしすぎ、もしくは頭の使いすぎで熱のこと。

正 後半年から1年くらいの子供が、母親ら受け継いだ免疫が切れることで病気かかり、熱を出すこと。

※知恵がつき始める時期に出す熱という意。頭に血が上ると熱くなることから、試験などに失敗した言い訳としてあえて誤用されるケースも。逃避による幼児退行という説もある。

⚠ 性癖 ⚠

誤 性的嗜好のこと。対象や目的におけるその人の固有の方向性、特徴。

正 性的嗜好だけではなく、その人の性格、特徴などの性質全般を指す。

※もはや市民権を得ていると言っても過言ではない、誤用界東の横綱。面接などで聞かれた時に勝手に誤用し、うっかり体現でもしようものなら御用となりかねない。要注意。



▲「あなたの性癖を教えてください」「実は……Mの方を少々たしなんでおりまして……」「えっ」

はみだし
すてーじ

整数とかけて人間と解きます。その心は、どんな法を適用したとしても、割り切れない余りモノが必ず出て来るでしょう。
⇒余りモノたちも類が友を呼び、果敢に群れを作ります。

はみだし
すてーじ

ホタル狩り？ なんて酷い！ と一瞬思ってしまった。
⇒フルーツ狩り？ なんてきれい！

(教・4 なた)
(と今でも思っていますよー；編)

(理・院 水瀬悠)
(こんなもんで許してやってください；編)